

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び

こんな実践

身の回りには、見方を変えると顔に見えるものがあることを知った子供たちが、一人一台タブレット端末を持ち、顔に見える形を探し撮影して、自分が見つけた顔の形に見えるものを伝え合う活動を通して、身の回りにあるものの形の楽しさやおもしろさに気づくことができた実践です。

実践学校 I 小学校

実践学年 2 学年

実践時期 7 月上旬

単元・題材名 「ともだちみつけた！」

学習指導要領と関連：B 鑑賞 (1) ア

○ 教師から全体へ例を示すことにより、全体での課題把握をスムーズに行うことができました。黒板前のスクリーンに映し出された画像を見ながら、児童が「これが目で、鼻で口」と答え、他の子も「そうそう」と言ったり、「あっそっか」と言ったりして、課題を把握することができました。

○ 一人一台タブレット端末を持って、一人一人が校舎の中で、顔に見える形を探しに行きました。自分が見つけた顔に見える形を、友達に伝える姿が見られました。また、「その顔、どこで見つけたの？」と友達に聞き返し、その場所を訪ねて自分でも撮影して「本当だあ」と確かめる姿が見られた。そして、友達が見つけた顔の形の捉え方を取り入れて、新たな顔の形を見つけ出す児童もいました。



○ グループでは、自分が見つめてきた顔の形を発表し合いました。デジタルカメラと違って、タブレット端末はそのまま大きな画面で友達に見せることができます。画面を見せながら、指で示したり、拡大したり工夫して友達に説明でき、自分が見つめてきた顔の形を容易に共有することができます。

○ 友達が見つめてきた顔の形を見て「僕も見つけたものは一緒なんだけど。タブレット貸して。こうすると（タブレット端末をぐるっと回して）、ぼくは、これがロボットに見えるんだ」と同じ形でも新たな見方を友達に示す子もいました。また、顔の捉え方がよくわからない場合には「これ、どこが目なの？」と尋ね、「これは、ここが目です…」と答えるなどして、友達との形の捉え方の違いや、形のもつ楽しさやおもしろさに気付くことができました。

○ 右の児童は天井から伸びている針金を顔に見立てました。ほかにも下のような作品などができました。



ここがポイント！

- ・子どもが一人一台タブレット端末を持つことによって、自分がカメラマンになって、自分の意図したように画面を切り取り、自分が納得いくまで夢中になって取り組みます。
- ・タブレット端末を用いることによって、友達との作品の共有、発表が容易になります。また、タブレット端末に写された画像を回すことで、同じ画像でも見る角度によって様々な顔に見えてきます。

まとめ

- ・タブレット端末を用いることによって、自然と友達との対話が生まれました。「友達が私の見つけた顔の形をすごいって言ってくれた」や、「友達の見つけ方で私もやってみよう」など、自分の考えのよさや新しい見方や考え方に気づくことにつながっていきます。